

寒梅 (新島 襄)

庭上一寒梅 笑侵風雪開
不爭又不力 自占百花魁

解説 寒中に咲く梅を、真の先覺的指導者にたとえた詩。

庭上の 一 寒梅

語釈 ※寒梅||寒中に咲く梅。早咲きの梅。

笑つて 風雪を 侵して 開く

※庭上||庭前。にわさき。※風雪||風、雪。きびしくおごそかなものとしてあげた。※侵||おかす。忍びがたいのを忍ぶ。※力||つとむ。励んで行なう。※占百花魁||あらゆる花のさきがけ。まっさき。

※占||しめる。自分のものとする。独占する。

争わず 又 力めず

通釈 庭さきの一本の早咲きの梅が、平気で風や雪にもめげずに咲

自らの 百花の 魁を 占む

いたことだ。まるで微笑むかのようである。一番咲きを競おうとしたのでもなく、無理に努力したのでもない。自然にあらゆる花のさきがけとなつてしまつたのである。(人もこうありたいものだ。)